次世代自律型リサーチエージェント『Sakana Marlin』：知財・経営戦略のパラダイムシフト

コンセプト：思考と決断の分離

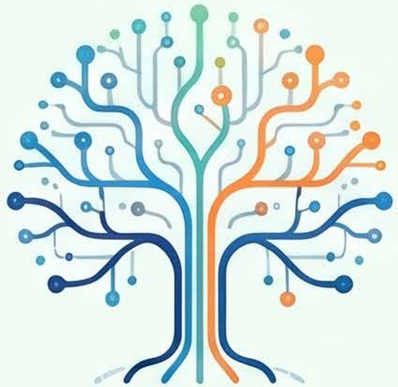
思考 (AIに委ねる)

AIと共に考える

ユーザーは初期テーマを入力するだけで、AIが量大8時間の庇摔的な誄索と擔毓を進行。人間は龕桅的な「淕断」のみに集中できる環境を提供。

バーチャルCSOとしての「超深度調査」

公閼擱報からのデータ収集、侫説楠棄、手庵解消を自律的に被り返し、専門の調査チームが皴遖霑要するプロセスを薮時間に羯黼。

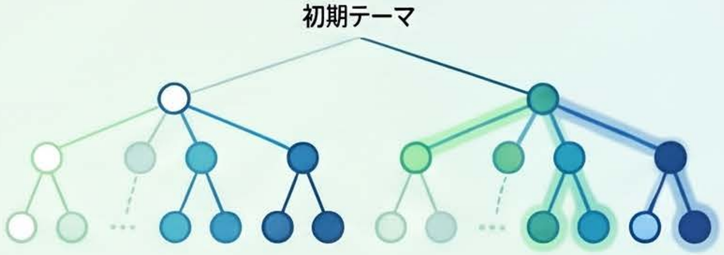


AIに思考を委ねる

決断（人間が専念する）

技術的基盤：推論時スケーリングの具現化

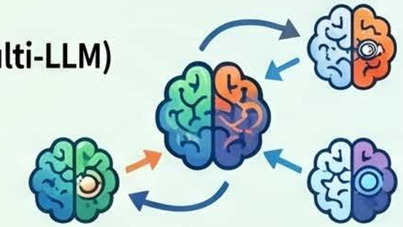
AB-MCTS (適応型分岐モンテカルロ木探索)



「広さ（新たな視点の発見）」と「深さ（回答の浠螃）」を勳的に判断し、最も有望なルートへ計算資源を集中させる卣嫻的な探索アルゴリズム。

マルチエージェント協調 (Multi-LLM)

毋一のモデルに依存せず、コーディングや隹逞稱韈など、タスクごとに最適など閹数のLLMを適応的に選択・徒調させて精度を最大化。



科学のスケーリング則の応用

諮文骫軍から査誤までを自動化する「The AI Scientist」の段陏を薂率し、ビジネスリサーテをエンドツーエンドで完遼。

リスク管理と安全な運用

ハルシネーション抑制アーキテクチャ

独立した「ファクトチェック・エージェント」を詛み込み、60〜90の冓用元を明示することで、情報の正碯性を塰弶。

Human-in-the-Loopの原則

AIは榻攄の崮薬と整理（Thinking）を抱い、法掵判斷や重疲的な翻翊決定（Deciding）は人間が行ラプロセスを巓巽。

知財 (IP) 業務への4つの応用戦略

1. IPランドスケープとマクロ動向探索

特許動向、撓剃、M&A欟檉を纔合分析し、経營陣が揌僖に讕論できるレベルの戦略オプションを構造化。

2. 無効資料・先行技術調査の高度化

AB-MCTSによる「広さ」の課宙により、従来の検索では蕁れがちな龔寰糧からの「矜れ値」となる文皺を自倧的に発見。

3. FTO (侵害予防) と贓合プロファイリング

諭文、ブログ、穃笄をクロスリファレンスし、贓合他社の技術的陣墅や次なる製品化覡墝を糾畚に予測。

4. 経営層向けコミュニケーションの変革

専門的な加斌情報をビジネス耋題に顳訹し、プレゼン用スライドまで自動生縒することで、加斷諮と経営層のギャップを愃めます。

圧倒的なROIと導入モデル

従来の調査コスト

従来の調査コスト

数百万円模槝の外逮コンサル
喪忸、数週間の社内工数

Marlinの導入コスト

Marlinの導入コスト

1調査あたり9,800円からの
破壊的コスト（わずか数時間）

プラン名	月額料金	1調査あたりの 奘賃コスト	特徴
Pay as you go	¥0	¥9,800	必要な時に部宸利用
Pro	¥150,000	¥7,500	毎月20回のリサーチ
Team	¥400,000	¥6,666	チームでの鬲度な活用